

男女共同参画の視点から見た 地震・避難所対策!!

南海トラフ地震の30年以内の発生確率は70～80%とも言われており、(内閣府の地震調査委員会より)いつ起こるか分かりません。今回は、男女共同参画の視点から見た地震・避難所対策について考えてみましょう。



地震が起こったとき、避難時に不安なことは何ですか？

女性

寝たきりの夫を自宅で介護している。夫を連れて避難することはできるだろうか…!?

ガスや電気もなかなか復旧しないだろうし、食糧や生活用品は手に入るのかな。

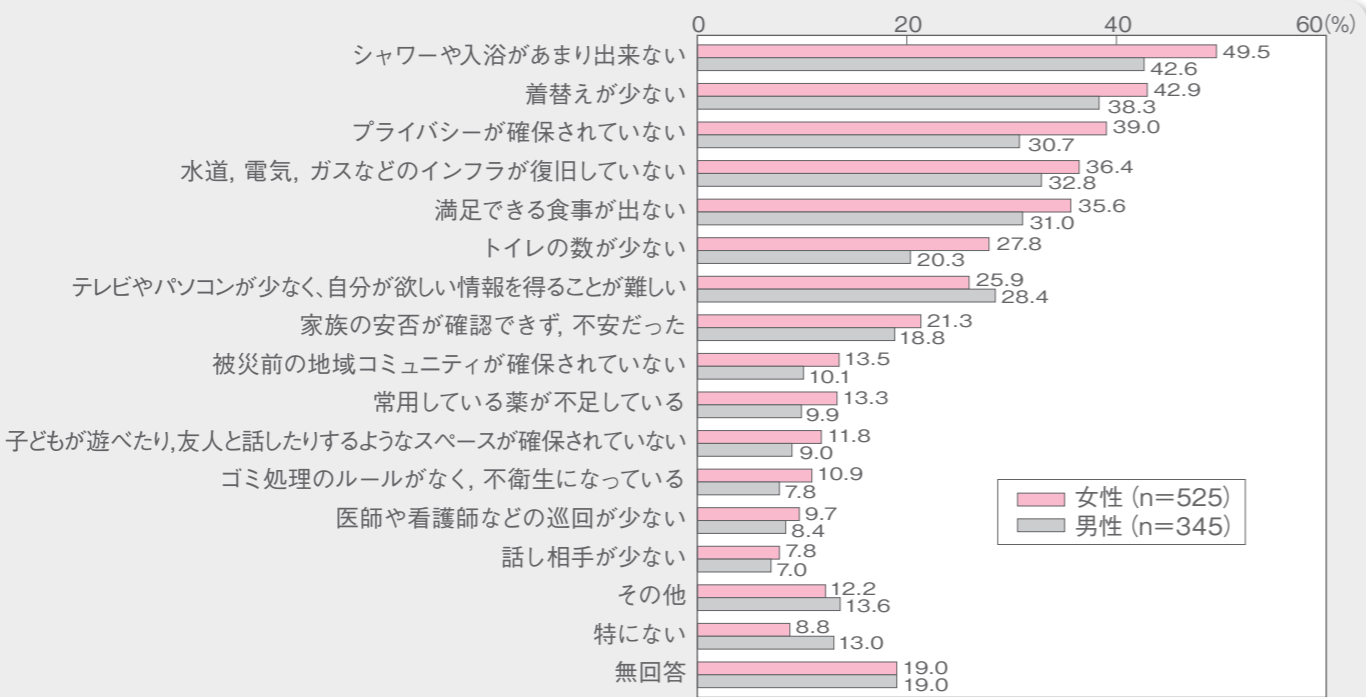
男性

仕事中に地震が起こったら(平日の昼間)家族は大丈夫かな。ちゃんと連絡はとれるのかな。

子どもたちが避難所の中を走り回ったり、泣いたりしたら気をつかってしまいそう…

東日本大震災直後からの避難所生活での困りごと

(複数回答)



(備考) 1 内閣府・消防庁・気象庁共同調査「津波避難等に関する調査」(平成23年)を基に、内閣府男女共同参画局による男女別集計
2 調査対象は、岩手県、宮城県及び福島県の沿岸地域で県内避難をしている被災者870人(女性525人、男性345人)。調査は、仮設住宅、避難所を訪問し、面接方式で実施。
3 調査時期は、平成23年7月上旬から下旬。

出典：平成24年男女共同参画白書

グラフを見ると、女性は、男性に比べて、「シャワーや入浴があまり出来ない」「プライバシーが確保されていない」「トイレの数が少ない」の割合が高くなっており、女性の方が避難所での生活について不便に感じている人

が多いことが分かります。また、避難所の設計・運営の中心を担うことの多かった自治会長は、95%以上が男性であり(岩手県、宮城県及び福島県)、女性等への配慮が十分ではなかったとされています。

熊本地震での避難所では…?

東日本大震災では「女性用品が不足した」「授乳や着替えの場所がなかった」など、物資の備蓄・提供や避難所の運営について、女性等の被災者に十分な配慮がなされず、様々な問題が明らかになったことから、熊本地震発生時には、様々な対策がされたり、新たな課題が明らかになったりしました。

プライバシーの確保

間仕切りなどによるプライバシーの確保、女性更衣室の整備、授乳室の整備などは、5割程度の自治体で震災後1か月以内に整備されました。



物資配布への配慮

生理用品や下着、おむつなどの女性や子育て家庭向けの物資は、早期に揃っていましたが、女性による配布は震災後1か月までに3割程度となっており、異性からの配布は「受け取りづらい」との声もあったようです。



DVの防止

熊本市男女共同参画センターでは、発生直後から、性暴力防止の啓発ポスターを各避難所に掲示し、DVの防止を呼びかけました。

車中泊避難者の増加

強い余震によって屋内が怖い人や子どもやペットがいて、避難所では迷惑になると思った人の多くが車中泊を選びました。そのため、避難者の実態が把握できず、物資の配給に混乱が生じたほか、エコノミークラス症候群になる人が相次ぎました。



避難所の運営は、みんなで

防災について、これまでは成人・男性・健常者の視点から考えられる傾向がありました。しかし、避難所は、様々な年代や状況の人が集まって生活します。

「平時にできないことは、非常時にはなおさらできない」とよく言われるように、日頃から性別などにとらわれず、いろいろな意見を取り入れ、行動していくことが大切です。そうすることで、乳幼児、妊産婦、高齢者、障がい者、性的少数者等多様な配慮を必要とする方への対策につながります。



～女性の視点から日頃から揃えておく便利なもの～

水や食糧など誰もが必要なものは、比較的早めに配給されますが、その他のものは、配給に時間がかかる場合もあります。必要なものは、まずは自分自身で備えておく安心です。

- **マスク**
感染症の防止、^{じん}粉塵を吸い込むのを防ぐほか、化粧ができないときにも。
- **生理用品・おりものシート/おむつ**
自分に合うものを用意しておく安心。下着を替えられないとき清潔さを保つためにも。
- **ラップ**
食器にかぶせて水を使わない工夫、衣類の上から巻いて冷気の遮断など、何でも使える便利品。
- **ウェットティッシュ/汗ふきシート**
お風呂に入れないとき、体をふくのに役に立ちます。大判のものが◎。

● その他、丸亀市の防災に関する情報は、

[丸亀市 防災](#) [検索](#)

● 10名以上で、防災に関する出前講座も行っています。

[丸亀市 出前講座](#) [検索](#)

[男女共同参画の視点からの避難所運営について、災害時に備えて(危機管理課)等]